

候

但最初者一時ニ樂人數名招集之上諸種之樂器ヲ合奏セシメ我音樂之大體ヲ示シ其後者更ニ兩三名ヲ撰用シテ期日ヲ定メ時々來館之上音樂之事ヲ談セシムベシ尤右ニ付相當之報酬金附與致スベキ目的ニ有之候

第二、東京師範學校附屬小學校及東京女子師範學校附屬練習小學校并ニ幼稚園生徒ニ來週（四月の第一週目）ヨリ唱歌教授爲致候事

〔手書き〕〔音樂取調所書類〕明治十三年

(1) メーソンの生年については従来一八二八年とされていた。音樂取調掛にはメーソンの履歷書が保存されていないためこの點の確認ができなかったが、L・M・マクガレル氏により実は一八一八年生れであることが明らかとなった。同氏は修士論文（東京芸術大學音樂研究科音樂教育学専攻、昭和五十二年提出）作成に際し、メーソンの生地であるメイン州ターナーの役所でこれを確認した。

## 二 音樂取調掛の整備と伝習生の養成

### (一) 音樂取調掛、最初の蔵書

洋楽譜七十八冊、洋楽書五冊は、メーソンがボストンであらかじめ注文してあったものの到着分、およびメーソン個人の寄贈によるものである。楽譜の中には二十冊の英語版『バイエルピアノ教則本』が入っていた。音樂取調掛のピアノの手ほどきはバイエルを使い、メーソンの指導で行われた。二十冊は伝習生が日常の練習に使用し、一年間で全教課を終えることが課せられた。二十冊とも真黒に指垢がつき、破れた楽譜は強い和紙で補強されている。ほとんどの『バイエル』にはメーソンの書込みがあつて、これを見ると当時の伝習生の真剣なピアノへの取組みが目に見えるようである。わが国で今日に至るまでピアノ教本の定本として使われている『バイエル』のルーツはここにあつたのではなからうか。

〔明治十三年七月二十九日付、文部省内記所に回付して登録を受けた楽譜および図書〕

バイエル、メソデ	貳拾冊
フライジー「プレイディ」 <sup>(1)</sup> スタデース	壹冊
ウイク「ヴァイク」 <sup>(2)</sup> メソデ	壹冊
セロニー「ツェルニー」	貳冊
クレメンチー	貳冊
クローロー「クローラウ」	四冊
ベルチニー「ベルティニー」	六冊
ジアバリー「ディアベリ」	貳冊
ケーレル「ケーラー」キンデルユーブンゲン	貳冊
ミュルレル、ユーブンクスチュック	貳冊
ケーレル、ホルクスメロジ	貳冊
ケーレル、ダンスス・ポプラー	壹冊
ケーレル、ホルクススタンツエ	壹冊
エメリース「エメリー」	貳拾冊
リトルフ「ケーラーの誤りでリトルフは出版社名」	拾貳冊
出納沿革例規類纂 自明治元至明治十	五冊
音樂讀本	壹冊
シュイネ、スコチスメロジク	壹冊
テーロル、サイアンスオブミュージック	壹冊
ホント、ヒストリー、オブミュージック	壹冊
ブラセルナ、シヨオリーオブサウンド	壹冊

バネトル、ミュージック

壹冊

一 印度音楽ノ理論

二 印度樂器略説

三 ブゴラ、オ、イチハサ

四 マラビカグニミタ

五 印度演劇論

六 公報及輿論

七 ベンガル音楽校第五及第六年報

八 諸家印度音樂説

九 ベンガル文英國略史

十 印度詩類

十一 風琴略論

十二 印度音樂

十三 ヤントラ コシヤ

十四 タゴレ家略傳

十五 オーエンメレデス古記

以上

乙一号 セキス プリンシパル ラガス(印度音樂ノ略論) 壹冊

乙二号 エイツ プリンシパル ラガス(印度演劇論) 壹冊

乙三号 テン プリンシパル アヴタス(印度演劇略史) 壹冊

乙四号 サンジタ サラ サングラハ(諸家サンスクリット音樂説)

壹冊

乙五号 ヒンド ミュージック(諸家印度音樂説) 壹冊

乙六号 ウヘニ サンハラ ナタカ(バラナラヤナ氏サンスクリット演劇論英譯) 壹冊

乙七号 ヤンタラ クセタラ デピカ(印度音樂大意) 壹冊

乙八号 ハモニヤム ストラ(和音略論) 壹冊

乙九号 カウイ ラハスヤム 壹冊

乙十号 ヤントラ カシヤ(古今印度ベンガル樂器略説) 壹冊

乙十一号 ブリーフ、ヒストリ、ヲフ、エンギランド(英國史略) 壹冊

冊

乙十二号 マサナ プジヤナン(サンクリット詩類) 壹冊 十八葉

乙十三号 ローガル イリハス ガリタ ブリタタ(欧州地史略) 壹冊 三十六葉

乙十四号 ムクタバリ、ナテカ(ベンガル演劇) 壹冊 六十三葉

乙十五号 マラビ カグニミトラ ナタカ(サンスクリット演劇) ベンガル文 壹冊 百十葉

乙十六号 ショルト、ノルテス、ヲフ、ヒンドー、ミュージカル、インストリメント(印度樂器略説) 壹冊 四十三葉

乙十七号 エ、フユー、ライリック、ヲフ、ヲーエン、メレデス(ヲーエン、メレデス古記) 壹冊 百葉

乙十八号 ボラテヤ ナタヤ ラハスヤ(印度演劇論) 壹冊 二百六十八葉

乙十九号 ヒフテ チーユンス(五十調子類) 壹冊 五十九葉

乙二十号 ジタワリ 壹冊 百〇八葉

乙二十一号 エ、ウーエデック エムン(ウーエデック詩類) 壹冊

乙二十二号

乙二十三号

乙二十四号

乙二十五号

乙二十六号

乙三三号 エ、ヒュー、スペシメン、ヲフ、インジャン、ソングス(印

度歌類集) 壹冊 百十三葉

乙三三三号 ウクトリヤ サムラジヤム 壹冊 百五十五葉

乙三五号 エ、ブリーフ、アカウント、ヲフ、デ、タゴール、ハミレ

ー(タゴール家略傳) 壹冊 十七葉

乙三六号 公報及輿論

一 音楽略解

六冊

一 箏曲大意抄

五冊

一 糸の志良扁

壹冊

一 吾孀箏宇多

壹冊

一 唄ヒ本

四拾壹冊

合計百八拾四冊

[手書き]

(『往復書類、會計局ノ部』明治十三年二月〜十四年六月)

(1) Louis Plaidy (1810-1874) : Technical Studies for the Pianoforte.

(2) Friedrich Wieg (1785-1873) : Method of Piano-Forte. フリードリ

ヒ・ヴィークはクララ・シューマンの父。彼が娘クララのピアノ教育のために作成した教則本の英語版である。

代價米金貳百弗 一箇ニ付五拾弗

内二個音楽取調所用 二個伶人所用

一、ビヲヲ

一箇

代價米金五拾弗 音楽取調所用

一、ビヲヲ

一箇

代價米金貳拾五弗 伶人所用

一、ビヲリンセロ

一箇

代價米金四拾五弗 音楽取調所用

一、ビヲリンセロ

一箇

代價米金貳拾弗 伶人所用

一、ダブルベース

一箇

代價米金三拾貳弗 伶人所用

一、ダブルベース

一箇

代價米金六拾弗 音楽取調所用

一、クラリヲネット

囊入

二箇

代價米金四拾弗 伶人所用

一、フルート

箱入

一箇

代價米金貳拾弗 伶人所用

[手書き]

(『往復書類、會計局ノ部』明治十三年二月〜十四年六月)

## (二) 音楽取調掛における最初期の楽器状況

一、ピアノ

拾箇

一、ピアノ用腰掛

壹箇

このピアノはアメリカ、ボストンのチェッカリン社製のスクエア・ピアノである。明治十三年六月に備え付けられた。

一、ペーカル氏製バイオリン

四箇

以上の楽器は、明治十三年六月にメーソンがボストンのワシントン・ストリート、百七十七番地トムソン・エンド・ラデル社へ注文し、翌十

四年二月に到着したものである。和楽器については、次のような書類を提出して購入手続きを行った。